

精神病を体験して思ったこと、人々に知ってほしいこと

池田市の地域生活支援センター「咲笑(さくら)」のみなさん(2003.1.15)

ご紹介：きょうのために「スウィートメモリー&サーカス」というグループを結成してくださった6人のメンバーとソーシャルワーカーの野田美紗子さんです。お話が始まる前に、アンケート用紙に「精神障害という言葉から浮かんだイメージを3つ」を書き込んでくださいね。3回生の白石佳奈さんは、ミニ卒のためにここに通わせて頂いています。メンバーの中には卒論を仕上げ、官庁に就職する寸前に発病した女性もおられて、論文の書き方を指導していただいたりしています。

咲笑は、宝石商が住んでいた店つきの豪邸を借りて運営しています。あの池田小学校事件起きたあと池田市長の倉田さんの英断で足が早められたという珍しいいきさつがあります。きょう、進行役をお願いしてあります野田さんは保健所に長くお勤めでしたが、咲笑の設立のために奔走され、設立と同時に保健所をきっぱりやめてこちらに移られました。月給は半分開くらいになるらしいですけど。では、よろしく。



.*=*.:

野田さんのはじめのトークから：

精神障害者の地域生活支援センター「咲笑」からメンバーともどもやってまいりました。「咲笑」という名前は「いつも笑いが咲きますように…」との願いを込めてつけられました。

池田市で精神病体験者のための地域生活支援センターを作る計画は、家族会を中心に進められてきていました。その最中の2001年6月に、あの池田小児童殺傷事件が起きました。宅間被告についての事件直後の報道で、精神病を体験した人々は不安で眠れない、まわりの視線が恐い、現在住んでいるところから出て行けと言われる恐怖を感じるなどの大きなダメージを受けました。池田市倉田薫市長は事件後、作業所をまわり、激励しました。「センターや作業所に通う人は、いつもケアされているのだから大丈夫。むしろ相談したり落ち着けたりする場所がなく孤立する方が問題。こういう施設を増やすことが事件を防ぐことにもなる」と、地域生活支援センター「咲笑」の設立資金を半分援助する予算を急遽組むなど、異例のバックアップをしてくれました。

「咲笑」はオープンしてすぐ、地域のみなさんのお宅200軒に招待状をいれて回りお披露目会をしました。七夕の日でした。1階は小規模授産施設の「ウォンバット」2、3階に「咲笑」があります。2階にはモーニングサービスをするダイニングキッチンとお風呂、メンバーがくつろぐ和室、3階は事務所、静養のための和室、パソコン教室やミーティングが行われる地域交流室があります。「咲笑」にはみんなが運営会議で決めてきたものだけがあります。

「咲笑」ができる1年前、箕面市に地域生活支援センターが発足してるんです。そこに、メンバーとして一人だけ潜り



職員と一緒に夕食会の準備をする利用者たち。リラックスした雰囲気の中で、自然と笑みがこぼれる(大阪府池田市の地域生活支援センター「咲笑」で) = 永尾泰史撮影

込ませていただきまして、利用する側からの実際どうなのか、咲笑ではどんなことをしたらいいのか斥候隊として入っていただきました1まず、そのいいだしっぺからまずお話いただきたく思います。2002年5月21日読売新聞より

.*=*.:*=*.:*=*.:*=*.:*=*.:*=*.:*=*.:*=*.:*=*.:*=*.:*=*.:*=*.:*=*.:*=*.:*=*.:*=*.:*=*.:*=*.:

*:.

☆授業前のアンケートから☆

精神障害に対してどんなイメージがありますか？

- ★ 行動の予測ができないから不安、恐れ 社会生活が困難
- ★ 病気 不安定 孤立
- ★ 暗い 賃貸住宅確保困難 誤解
- ★ 純粹 心優しい 感受性が強い
- ★ 不安定 幻聴 突然発病
- ★ 隔離 外出や仕事ができない 孤立
- ★ 統合失調症 うつ病 精神科
- ★ 謎(よく分からない)
- ★ 幻覚 苦しみ 次に何をするかよく分からない
- ★ 施設 グループホーム 長い治療
- ★ 繊細さ 偏見 人なつっこさ
- ★ うつ 幻覚、幻聴 薬
- ★ 分かりにくいというか想像しにくい
- ★ 心の病気 治る病気 偏見
- ★ 働けない 暗い イライラ
- ★ 不安定 社会活動の難しさ 地域生活での支援の必要

☆授業後のアンケートから☆

今日、咲笑のみなさんの授業を聞いて初めて知った、感じたこと、発見したことは？



- ★ 途中から聞かせていただいたのですが(ごめんなさい…最初から聞きたかったです)話をしている方が精神病をもっておられるとは全く気づきませんでした。
- ★ 精神病を体験したことのある人が、ヘルパーとして活動している人がいることを初めて知りました。そういう人なら精神病の人たちをよく理解できる面もあると思うので、もっとそのようなヘルパーさんが増えたらいいと思う。
- ★ 咲笑のイメージはもう少し「施設」っぽいものを想像していたのですが、本当に普通の家でそこにいる人も想像とは違って明るく、生き生きとしたように感じました。
- ★ 自分の病名をみなさんがちゃんと認識していること。
- ★ 大学4年生で就職決まっても、精神病がおこること
- ★ 精神障害を持つ方は人前でお話されたりするのが苦手かと思っていましたが、今日来ていただいた方のお話しは笑うところもあって楽しく、ビデオの中の人々もカメラの前ですごく楽しそうでした。あと、みなさんお薬に詳しいのだなと思いました。
- ★ 当事者の持っている偏見、当事者の家族が持っている偏見を払拭することが第一歩であるということ。
- ★ 統合失調症だと自らおっしゃった方が大変分かりやすくお話をしてくださいました。こういった病気を持った方と接するのが初めてだったのですが、自分の持っていたイメージが間違っていたことを知りました。
- ★ 恥ずかしながらほとんどのことを知らなかった。咲笑のような支援センターがあることも知らなかった。病気のこと、どんな症状があるのかも知らなかった。
- ★ 自身も精神病をもっている方がヘルパーとして活躍されているということを知りました。
- ★ 咲笑のような生活支援センターの重要性。ビデオを見て、ほんとに利用者さんの笑顔が印象的だった。どの市町村にも利用しやすい場所に利用しやすいセンターが作られる必要がある。
- ★ 私くらいの年齢でも発病することがある、とはっきり言われたことは、初めてでショックでした。
- ★ 「自分の中の偏見と戦う」という言葉が印象に残りました。それは精神病に限らず、自分が人から偏見の目で見られていると思うときは、まず自分の中の偏見から抜け出さなければならないのだと思いました。
- ★ 紹介ビデオの中で皆さんの顔が生き生きとしていたこと。世の中での「精神障害」という言葉につきまとうイメージとは全く異なる雰囲気を感じました。
- ★ 咲笑の明るい雰囲気を見たり聞いたりし、精神障害に対する偏見を変えていける可能性を感じた。

